

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2390700082		
法人名	株式会社サカイ		
事業所名	グループホームあじさい「つるまい」		
所在地	名古屋市昭和区山脇町4丁目8番地9		
自己評価作成日	平成29年11月25日	評価結果市町村受理日	平成30年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhiw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=2390700082-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成29年12月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「家事参加」「鶴舞公園」などへの散歩など日常生活への参加を通じたケアだけでなく「音楽」などの情緒にうたえるケアなども取り入れている。地域のボランティアの受け入れも定着してきており「馴染みの関係」作りができています。外出については、お花見・日帰り旅行・紅葉・初詣など地域と関わりながら四季を感じていただけるように行い、ホーム内でもお彼岸のおはぎ作りや節分の豆まき、雛人形作り、七夕の笹飾り、西瓜割り、流しそうめんや菖蒲湯、ゆず湯などにも取り組んでいるだけでなく、日常的に体操や貼り絵、ボール遊びなども行えるよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームには、小規模多機能事業所が併設されていることで、利用者の身体状態等にも合わせながら、小規模多機能からグループホームへの移行が可能である。利用者にとっては、生活環境の変化を抑えながら生活場所を移行することができる利点があり、事業所間で柔軟な対応にもつながっている。併設事業所とは、年間を通じて行われている合同の行事や避難訓練の実施が行われており、事業所間で連携した取り組みが行われている。地域の方との交流についても、ホームの行事の際には、地域の方の参加が得られるようになる等、徐々に地域の方にホームを知ってもらう機会にもつながっている。また、家族との関係づくりについても、ホーム1階にある共有スペースを活用した行事が行われていることで、行事の際には家族にも参加を呼びかけており、家族との交流の機会につなげている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎朝の朝礼の際には目的を皆で唱和し共有しており実践に繋がられるよう平日頃より努力している。	法人の基本理念をホームの支援の基本としており、法人の委員会が策定するスローガンと合わせて、職員間で唱和を行う取り組みが行われている。また、ホームでユニット毎に理念をつくる取り組みも行われている。	ホームの各フロア毎に理念をつくる取り組みが行われている。理念は、職員による支援の基本であり、目標でもあるため、取り組みが今後のホームの運営につながることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域交流のイベントを企画しているが、参加していただけることは少ないが、町内会より回覧板がまわってくると共に子供110番などにも参加させて頂いている。	ホームは地域の自治会に入り、地域の行事の際には、ホームからも利用者に参加する取り組みが行われている。地域の方とは、併設事業所と連携しながら交流の取り組みが行われており、合同の行事が行われている。	地域の方との交流がホームの継続したテーマでもある。併設事業所とも連携を深めながら、地域の方との交流が深まることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域交流イベントの他に、介護相談の日を設けており、相談に来られた際に施設での事例もふまえてご説明させて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	二ヶ月に一回運営推進会議を行い、施設内の状況・状態の報告をさせて頂くと共に、意見を頂く機会を設けている。	会議の際には、運営状況を記載した資料を配布しており、出席者にホームの取り組みを知ってもらい働きかけが行われている。また、併設事業所と合同で開催していることで、事業所全体で出席者との情報交換にもつながっている。	会議の場所を建物1階のスペースからホームユニット内に移動している。家族にも継続的に働きかけを行い、会議への参加につながることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	報告が必要な要件があれば、速やかに報告させて頂くと共に、不明な点があればご相談させて頂いている。	生活保護の方が生活しており、市の担当部署との情報交換等が行われている。また、ホーム管理者の他にも併設事業所のケアマネージャーを通じた地域包括支援センター等との情報交換の取り組みも行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	当施設において玄関のある階はほぼ無人の為、外部よりの侵入者を防ぐ目的で施錠させて頂いている。身体拘束に関しては、会議等で勉強会を実施し身体拘束をしないケアにとりくんでいる。	玄関は施錠されているが、各フロアの出入り口には施錠を行っておらず、帰宅願望がある方についても柔軟な対応が行われている。また、法人で研修の取り組みが行われており、職員の振り返りの機会につなげている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待防止の理解の為に勉強会を実施すると共に、不適切なケアをスタッフ同士で注意しあえる環境作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度を利用されている利用者様が実際ににいらっしゃる為、関わり学ぶ機会もある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には、重要事項説明書にてしっかりと説明させて頂いた上で同意を得てから契約をさせて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	施設内に意見箱を設置すると共に、意見・苦情等があれば、法人全体で共有し問題解決に努めている。	ホームの行事の際には、家族にも案内を行っており、交流の機会をつくっている。家族から要望等については、ホーム管理者の他にも法人の幹部職員も対応する体制がつけられている。また、毎月のホーム便りの作成が行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月ユニット会議の場では、スタッフよりの意見を伺う時間を設けると共に、管理者が日常的にスタッフと話しその際も意見を聞くように努めている。	毎月の職員会議が行われており、職員間で意見を交わし、管理者が把握した意見等は法人にも報告され、運営への反映につなげている。また、管理者による職員面談の機会もつくられており、職員一人ひとりの把握が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	在籍年数や役職、資格等により昇給金額が変わってくる制度を導入しており、職員研修制度や人事考課を連動するシステムの構築も検討している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内に研修担当を設け、定期的に研修を実施し、介護や認知症について学ぶ機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	愛知県認知症グループホーム協会に加盟しており、研修に参加するなど農業者との交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	利用前、利用開始時のアセスメントを通じて状態や趣味・趣向など利用者様をとりまく環境などの把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	利用開始に限らず開始後も随時ご家族様の要望をアセスメントし、その要望についてはケアプランに反映できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご利用者様、家族のニーズに合わせ福祉用具の手配や訪問歯科、リハビリテーションなどをご利用いただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	日々の業務の中でコミュニケーションを図り、関係作りに務めると共に、情報を共有し、皆が良い関係が築けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	施設での目的でもあり、利用者様、家族様との関係作りに努めている。必要な情報はノートや会議で共有し、皆で関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	個別ケアにて馴染みのある場所へ外出レクリエーションを行ったり、ご家族様より交友関係を伺い受け入れる体制をとっている。	利用者の中には、入居前からの関係の方との交流を継続したり、併設の小規模多機能を通じた交流も行われている。また、家族との外出の機会もつくられており、食事や会食の他にも自宅で家族と過ごしている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	毎月の会議の場で情報の共有を行い、ご利用者様間で問題があれば、リビングでの座る位置の検討を行ったりし、利用者間の関係作りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	他の施設に移られたご利用者様に対しては、必要に応じこちらからの情報提供を行ったりし、必要であればご家族様ともご連絡させて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	施設としての1日の流れはあるが、個々の過ごし方や要望に沿えるよう努めている。	職員間で利用者を担当しながら毎月の便りの作成等、一人ひとりの把握が行われている。また、毎月のカンファレンスの取り組みが行われており、利用者の意向等を日常の支援に反映する取り組みにつなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前にご本人様やご家族様よりの情報収集を行うと共に、個人経過支援記録を作成し個々の様子や要望などを記録に残している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日の申し送りや介護記録などから状態の把握に努め、また日常の関わりの中からの状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	モニタリングを通じ、職員からの意見を反映し介護計画作成時にご家族様への説明、同意時に意見を求めている。	介護計画が6か月での見直しが行われており、変化に合わせた見直し等も行われている。また、日常的にも介護計画に合わせたチェック表に記録を残しており、状態等の変化の把握と、定期的なモニタリングにつなげる取り組みが行われている。	介護計画の作成と実践については、法人全体での取り組みが行われているが、現場職員への浸透がテーマでもある。職員間で確認を行いながら、日常の支援への反映と記録につながることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	可能な限り業務に入る前に個人経過支援記録を読み、情報収集をしてから業務にあたる体制をとっている。又、計画作成者は記録をプラン作成に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	必要に応じケアを状況にあわせると共に、小規模多機能と併設の施設の為交流の機会も設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	公園、喫茶店などが多い地域の為、お散歩等で出向く機会を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	施設の提携医療機関とは適時電話連絡をとったり月2回程の往診がある。	協力医による定期的な訪問診療が行われており、医療面での支援が行われているが、今までのかかりつけ医の継続も可能である体制がつくられている。また、ホーム関連の訪問看護による週1回の健康チェック等の支援も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週に一回、同法人の訪問看護師が来所し、ご利用者様の健康管理に努めており、必要に応じ電話対応もしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院のソーシャルワーカーとの連絡を密に行い、病院での状態の把握に務めると共に、定期的に面会に伺い、担当医師、看護師との関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご本人様、ご家族様や協力医師の意見を統合しホームでの介護力を説明して適切な支援ができるようにしている。	重度の方もホームでの生活を継続しており、ホームでの看取り支援も含めて、利用者、家族との意向等に合わせた話し合いが行われている。また、法人全体で看取りを見据えた体制をつくりながら、状況等に合わせた職員研修等の取り組みが行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急マニュアルを作成し、急変時には管理者への連絡を義務付けている、すぐに駆けつけられない場合でも指示を出せる体制を取っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に2回程避難訓練を実施し有事の際は冷静な対応がとれるように努めている。	年2回の避難訓練の際には、夜間を想定した訓練も実施している。建物1階にある通報装置についても夜間の対応等の確認が行われている。併設事業所と連携した訓練の実施も行われている。また、ホーム内に備蓄品の確保が行われている。	地域の方との協力関係が継続したテーマでもある。非常災害時における地域の方の一時的な受け入れも想定しながら、継続したホームからの働きかけに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	適時指導に務めると共に、スタッフ間で注意しあえる関係づくりに努めている。	法人の専門の委員会による毎月のスローガンを策定する取り組みが行われており、職員が日常的に利用者への対応を意識する取り組みが行われている。また、接遇に関する研修も行われており、職員の振り返りにつなげている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	随時その日の施設の状況、ご本人様の意向をうかがった上で1日の業務の組み立てを行い、適時変更し希望に沿えるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	可能な限りご本人様の生活リズムを尊重し、無理な参加を促したりせず柔軟に対応できるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	毎月訪問理美容の業者に訪問して頂き、希望があれば髪のカット、パーマ、カラー、顔そりを行っていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	行事の際やお誕生日などにどのような物が食べたのか伺った上で計画をしたり、外出をした際に食べたい物が食べられるように努めている。	ユニット毎に職員間でメニューを考え、職員により調理が行われている。重度の方が増えているが、利用者も片付け等のできることに参加している。重度の方に合わせたミキサー食等の提供が行われている。また、食事の際には職員も一緒に食事を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	毎月体重測定を行うと共に、毎日の食事摂取量を記録に残し、必要であれば水分摂取量も記録し必要な方は医師に相談をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後口腔ケアを実施すると共に、必要に応じ訪問歯科の手配やアドバイス、指示を頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	日々排泄記録を残すと共に、可能な限りトイレで排泄ができるよう指導している。	利用者毎に排泄記録を残しており、職員間でチェック表や申し送り等で情報を共有し、トイレへの声かけにつなげている。利用者の中には、排泄状態が改善した方もいる。また、訪問看護との排泄に関する医療面での連携も行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	日々の排便記録を残し、必要に応じ医師の指示の通りの薬の服薬を行うほか、積極的な運動、体操を行い排便の促しを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	ご利用者様個々に入浴して頂く体制をとっており、ご本人様が入りたくない際は無理強いせず様子を伺いながら声掛けをし、入浴が無理な際は清拭をさせて頂くこともある。	利用者が週2～3回入浴できるように取り組んでおり、入浴を拒む方にも職員間で声かけ等が行われている。重度の方に合わせた職員複数での対応も行われている。また、季節に合わせた柚子湯や菖蒲湯等の取り組みも行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	毎週一回寝具の洗濯をさせて頂き、清潔で快適な睡眠ができるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	管理者が薬の効果や副作用の知識を常日頃より向上できるよう務めると共に、薬剤師の先生よりの意見をいただける体制が整っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	利用者様個々に合ったことを実施できるようケアプラン作成時に盛り込み実施できるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日常的に散歩やお買い物の為に外出する機会を提供しており、外出中も柔軟な対応を心がけている。	利用者が日常的に外出することができるように、ホーム周辺への散歩等が行われている。近くに公園(鶴舞公園)があることで、季節に合わせた外出行事にもつながっている。また、運営法人が実施した市外への外出行事に、ホームからも利用者が参加している。	現状、利用者の外出の機会が限られた範囲となっている。ホーム近隣にドラッグストアが開店することもあり、利用者の新たな外出の機会につながることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	その方の状態を把握した上で、希望される場合には個別にお金を持って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族様の負担にならない程度に可能な限り対応させて頂いている。又電話が頻回にならないように関心が他に向かうような工夫も心がけている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	常に清潔に務め随時掃除を行い清潔感があるよう心がけると共に、調理の匂いや音、洗濯物等で生活感のある雰囲気づくりを心がけている。	各ユニットのリビングがホーム建物の上階にあることで、採光に優れた環境であり、利用者は日中を明るい雰囲気でも過ごしている。また、季節に合わせた飾り付けを行う等、季節感にも配慮した取り組みが行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	一人になりたい時には居室へお誘いしたり、気の合った同士の会話がはずむようにソファやベンチを設置して、場所の提供をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご自宅のようにくつろげるよう、ご自宅で使われていた物をお持ち頂き、設置して頂いたりしている。	利用者の中には、入居前から使用していた家具類を持ち込んでいる方があり、その方に合わせた生活環境がつけられている。また、ホームではベッド以外での生活にも対応しており、利用者の身体状態に合わせた居室づくりが行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	施設内はバリアフリーで随所に手すりを設置しご利用者様が安全に移動できるよう配慮している。		